

会議録（要点筆記）

●会議の名称

令和元年度 第2回 深川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

●開催日時

令和2年1月20日（月）17時30分開会～18時50分閉会

●場所

深川市役所3階大会議室

●議題

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ
4. 議事
 - （1）深川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン<改訂版>（素案）について
 - （2）第2期深川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
 - （3）その他
5. 閉会

●出席委員：22名、欠席委員：3名

市関係者：山下市長、事務局5名（担当：企画財政課企画係）

●会議資料

- ・議案
- ・委員名簿
- ・深川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会設置要綱
- ・【資料1】深川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン<改訂版>（素案）
- ・【資料2】第2期深川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）
- ・【資料3】まち・ひと・しごと創生基本方針2019（概要抜粋）
- ・【資料4】第2期 深川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 アイデア提案一覧（検討結果）

●会議の概要（発言要旨等）

1. 開会～17時30分
2. 委嘱状交付～省略
3. あいさつ～省略
4. 議事

- (1) 深川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン<改訂版> (素案) について
- (2) 第2期深川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (素案)
～事務局説明、※議事 (1) 及び (2) は関連があるため一括して説明

<質疑応答 人口ビジョン改訂版関係>

●質問～田中副会長

目指すべき人口の将来展望として 2040 年に合計特殊出生率を 2.07 とするのは難しい面があるかと思えます。人口ビジョンの 20 ページでは 2020 年に 1.50 となっており、一方、総合戦略 22 ページの 2024 (令和 6) 年を目標年とする数値目標では 1.50 ということになっています。人口ビジョンの 20 ページだと、2025 (令和 7) 年が 1.80 となっています。その理由について伺います。

●回答～事務局

人口ビジョンでは 2020 年 1.50 の目標としております。2025 年 (令和 7 年) で 1.80 の目標値でございますので、1 年の違いですけれども、総合戦略では 2024 (令和 6) 年までの計画ということになりますので、2020 年から 2025 年の間に 1.50 を目標値としているということでございます。

●再質問～田中副会長

人口ビジョンについては、段階的に上がっていくということではなくて 5 年単位で考えているということでしょうか。

●回答～事務局

そのように考えております。

●質問～佐藤委員

人口ビジョンをつくるに当たって、例えば国で指標が示されて、それに基づいて市が作成しているのでしょうか。

●回答～事務局

国から基本方針と国勢調査の結果を基にしている人口ビジョンの基本データが市町村に提供されております。国の基本方針では、長期ビジョンを時点修正に留めるということが示されておりますので、市町村においても前回の人口ビジョンから大きな変更については加えずに必要な数値等の変更には留めているという形になっております。

●再質問～佐藤委員

他のまちも同じような形で作成しているということなののでしょうか。

●回答～事務局

北海道も基本的には国の基本方針に基づいて素案を作成しておりますし、どの自治体もこういった国の基本方針を勘案しながら策定するというような形で進んでいると考えています。

●再々質問～佐藤委員

ほかの市町村と情報交換を行っているのでしょうか。

●回答～事務局

電話等で担当者と情報交換しています。その中では、他の自治体も国や北海道の考え方を参

考にするという言い方をされておりました。

<質疑応答 第2期総合戦略関係>

●質問～廣野委員

商工会議所などの経済界における20年から10年ぐらい前のことですが、北海道は日本の食糧基地だということで、穀倉地帯である上川や空知で収穫された農作物を留萌港から出荷しようという動きがありました。それにより行政もある程度連動したと思いますが、小平などの沿岸部や特に留萌港の改良についての話題があり、併せて留萌本線を活用するなどの議論があったと記憶しています。

人口減少の問題も含めてですが、こういうことと深川市の生きる道ということを考えてときに、今後、深川市単独で生き延びるということは厳しいと考えているのですが、深川市の立ち位置というものを確認できたらと思います。

●回答～事務局

今回の総合戦略では留萌港についての記述はしていませんけれども、例えば今の話の中に上川や空知という広域の視点のお話がありましたので、そういった観点の記述ということで説明をさせていただきたいのですけれども、まず国や道におきましても地方創生には単独自治体だけではなく、広域連携を取り組むことが必要としていますし、本市の総合戦略39ページには広域連携の推進という主要施策を設置しています。

北海道、空知、北空知での連携により地域資源の活用を行うなど、そして現在は、一部事務組合として学校給食組合、衛生センター組合や消防組合なども広域連携しておりますし、平成30年度には北空知の枠組みで定住自立圏も形成しております。

そういった取り組みの記述を加えるとともに、北空知だけではなくて、深川市と北空知以外の自治体との連携なども今後あるかと思っておりますので、そういったことは地方創生に有効と考え記述を加えています。

●回答（補足）～遠藤会長

広域連携の視点は大きな範囲で非常に難しいテーマだと思いますが、農作物の流通に関する記述としては14ページにJAきたそらちとの連携によって、ベトナムへのコメの輸出や、ユジノサハリンスクでの取り組みについて記述がされておりますので、こういう形をつくり上げていながら、深川の農産物などを売り出していくという戦略も今のご意見に関係する部分だと思います。

●関連質問～田中副会長

広域連携はとても重要な指摘だと思います。39ページの広域連携のKPIについてですが、令和6年で累計25事業となっておりますが、現状の23事業に加えてプラス2事業ということなのででしょうか。

●回答～事務局

KPI自体はプラス2事業という形になります。現状の23事業については、一部事務組合の事業ですとか、パスポートの発行などの取り組みになっております。広域の取り組みにつきましては、進めるに当たって関係する自治体との協議などに時間がかかりますので、KPIが少なく感じるかもしれませんが、第1期の目標も勘案しまして目標を設定しています。

●意見①～田中副会長

広域の取り組みについては、具体的な内容としてどういうものやっっていくのかという表現があった方がいいのかと思いました。

●進行～遠藤会長

ただいまの意見について、今後検討をお願いいたします。

●回答～事務局

了解しました。

●意見②～村上委員

総合戦略の基本目標4の主要施策に「安心を支える健康・医療・介護施策の充実」がありますが、やはり市病院の医師不足が不安という意見が農村青年部員からもでております。

昨年と今年で部員の結婚が多かったのですが、深川に住まずに旭川に移住した部員が結構多くて、その理由は、小児科と産婦人科の医師が深川にいないという問題でした。

奥さんが都会に住んでいた人で車の免許がないということもありまして、深川に住むと旭川まで行く手段が難しいことから、深川にそういう病院がないのがとても不安だという話を聞きました。

目標値にあります令和6年度の医師の人数ですが、もっと早く医師の確保はできないのでしょうか。

●回答～遠藤会長

市立病院の産婦人科の常勤医師についてはまだいませんが、小児科は4月から新たな医師が決まったということが新聞にありましたので、市も力を入れていると考えられると思います。

●回答～事務局

35ページの「②深川市立病院における医師の確保」をお開きください。その中に「医師確保策として、道内三育大学への医師派遣要請をはじめ、医師の紹介や斡旋をする公的機関や民間企業等を活用するとともに、旭川医科大学医学部の在學生などを対象とした修学資金貸付制度を充実するなど」という記述を行ってまいりまして、現在、病院事務部としましては、このような取り組みを行っているところでございます。医師の確保というのは、いただいた意見のとおり市として重要なこととして受けとめてまいりまして、このような施策を展開してはいるのですけれども、住民の皆さんに安心いただけるような医師の確保ができていない状況になっております。

こちらにつきましては、所管は引き続き医師確保に取り組んでいくとしてございますが、本日いただいたご意見を担当所管に伝えていきたいと思っております。

●質問～田中副会長

空知総合振興局が空知のワインについての取り組みを行っておりますが、ふかがわシールドは、その取り組みに含まれているのでしょうか。

●回答～事務局

空知総合振興局や果実酒という特産品を持っている自治体などが連携しまして、岩見沢などでイベント等があります。深川市のシールドについては、可能な限りそういった動きと連携し

ておりますので、振興局としましても空知のPRの一環として、ワインとシードルはセットという格好を取っていただいている状態です。

●意見③～田中副会長

それであれば高校生からワインに関するアイデアの提案もありますので、何か空知ワインとシードルの関係がわかる記述を加えてはいかがと思いました。

●進行～遠藤会長

ただいまの意見について、今後検討をお願いいたします。

●回答～事務局

了解しました。

●意見④～田中副会長

13 ページの水稲の生産量についてです。最初は5年間の目標としてかなり意欲的な数字だと思ったのですが、よく考えると現状値の平成30年は冷害年ですので、現状値を例えば過去5年間の平均を使うなど、もう少し精査する必要があるのではないかなと思いました。

●回答～事務局

記述方法についてのご意見につきましては、再度、所管と協議したいと思います。こちらの目標値については、今後策定されるJAきたそらちの計画と整合する形で設定した目標設定となっております。

●進行～遠藤会長

ただいまの意見について、今後検討をお願いいたします。

●回答～事務局

了解しました。

(3) その他～なし

5. 閉会～18時50分